

Q.3 地域医療情報連携ネットワーク「阿波あいネット」について

地域医療情報連携ネットワーク「阿波あいネット」は令和元年度より本格運用されたが、参加医療機関や登録者数が十分でないため、有効に活用されていない事例がある。また、ネットワークの維持費用を確保するためには、多くの医療機関に参加いただくことが課題である。「阿波あいネット」の参加医療機関と登録者数の更なる増加に向けてどのように取り組んでいくのか？

※ 阿波あいネット…同意いただいた住民の方の診療内容・検査結果等や、薬の処方履歴などを徳島県内の複数の医療機関や介護施設で互いに参照できるようにしたネットワークシステム

A 保険福祉部長

「阿波あいネット」は、平時の医療機関間の連携にとどまらず、災害時もその役割が期待されるところであり、多くの医療機関や患者の皆様に参加していただく必要があると認識している。利便性を向上させつつ、そのメリットを知っていただく必要があることから、レントゲンやCT・MRI等の画像を共有する機能を拡充する補正予算を今定例会に提出している。加えて、県として「一般社団法人・阿波あいネット」の広報委員会に参画し、周知・啓発活動についても積極的に行って参りたい。

＜コメント・考え方＞ 仕様の異なる電子カルテ間での利用、画像の共有ができるメリットを周知し、多くの医療機関などに参加してもらわなければならない。加えて、患者にとっても、救急搬送された場合や災害時においても安心して診療が受けられることから、登録者の増加にしっかりと取り組んで欲しい。

Q.4 LEDパレイ構想の新たな展開について

本県産業・経済の牽引役であるLEDに関して、阿南市の世界トップメーカーでは、新たな事業展開として、高機能LEDの開発・生産に力を入れている。県では国の事業採択を受け、光専門人材の育成と光関連産業の振興の取組を進めている。本県の産業を飛躍させる絶好のチャンスであり、県が策定作業を進めている「次世代LEDパレイ構想」の下、光関連産業の創出と人材育成の取組をどのように進めるのか？

A 飯泉知事

5年間で約50億円となる「地方大学・地域産業創生交付金」の採択を受け、「光」を軸とした取組みがスタートした。この交付金事業を核とし、「次世代LEDパレイ構想」の策定を進め、「赤外光コム」や「新たな光源」による応用製品の開発、付加価値の高い製品づくりに取り組むとともに、さらに県内企業への若手人材の定着促進や、高等教育機関による産業人材の「リカレント教育」、効果的な販路開拓とブランド構築など、徳島ならではの「光関連産業」を創出し、本県経済のさらなる成長による、地方創生の実現に取り組んでゆく。

＜コメント・考え方＞ 大学を中心に、LED関連の研究所や企業が徳島に集積するような仕組みづくり、次世代パレイ構想を策定して欲しい。育った人材が県内で活躍できるよう、既存企業への支援、新規企業誘致にも積極的に取り組んでほしい。化学系研究者育成にも高校からしっかりと力を入れるべき。

Q.5 農林水産業における気候変動対策について

農業分野では米の高温障害による一等米比率の低下、水産業分野でも海苔の記録的な不作など、地球温暖化による影響は一段と深刻になっている。気候変動に対応し、農林水産業の持続的な発展を図るために、将来予測される被害の回避・軽減等による生産性向上につながる取組を一段と加速させる必要がある。気候変動に対応した新たな品種・技術の開発及び実証をどのように進めていくのか？

A 農林水産部長

県では気候変動への適応策として、新たな品種や技術の開発に取り組んでいる。気候変動による影響は今後も拡大が懸念されることから、「コシヒカリ」の代替品種として、高温耐性に優れた早生品種や、秋期の高温による品質低下が少なく貯蔵性にも優れた「みかん」「すだち」の晚生品種など、

